

「議会のあり方」検討協議会第9回第2部会 協議概要

- 1 日 時 平成24年9月4日（火）午後3時～午後4時53分
- 2 会 場 議会棟 3階 第2委員会室
- 3 出席者 （委 員）布施部会長、湯浅副部会長  
川村委員、段木委員、酒井委員、佐々木(友)委員  
小田委員  
小川委員長  
（事務局）事務局長及び調査課長 他5人
- 4 傍聴者 （議 員）なし  
（一 般）1人
- 5 協議事項及び協議結果
  - （1）第8回部会における協議概要等について  
資料を配付し、了承を得た。
  - （2）議会報告会等の開催について  
最初に、各委員から他都市における議会報告会の事例などについて報告が行われ、その後、意見聴取を行った。  
議会報告会については、大方の意見としては、市民に議会への関心を高めもらうために行った方がいいのではないかとということであったが、一方で議会報告会は会派として行うべきもので、議会として行うものではないのではないかと、まず今ある制度を活用するべきではないかとの意見も出た。  
なお、協議を行う中で「子ども議会」について触れたが、広い意味での市民参加の一環という位置付けであれば、「子ども議会」については議会が何らかの形で関与するべきではないかとの意見が出た。  
今回は、本市議会で議会報告会を開催するとした場合にはどのような内容のものが考えられるのか各委員から提案してもらい、引き続き協議を行うこととした。

（主な意見）

- ・公聴会が機能していないことによる閉そく感があり、どうしたらいいかということを考えて、他都市では議会報告会を行うことになったのでは。どこかで議会のことを知ってもらうきっかけを持つためにも、我々が、市民が普段利用している施設などに出かけて発表することで、テーマに関心を持った人が市政に関わりやすくなる環境がつかれるのではないかと。
- ・「議会報告会」という言葉自体にこだわると本来の趣旨から外れるのでは。

もっと軽いタッチで、議会がしっかりと汗をかいていこう、議会にもっと関心を持ってもらうための取り組みをしていこうというぐらいの感覚で、表に皆でまとまって出ていくことが、市民から議会とは何をやっているのか分からないという声に応えるためにやることではないか。

- ・政策立案の情報を取って来るのは、意見を同じくしている会派がやるべきではないか。
- ・一番大事なのは身近に感じてもらうこと。名称にこだわらないで、やってみたらどうか。
- ・開かれた議会を目指すために、我々は汗をかく。その企画の一つとして、議会報告会などを表に出てやってみませんかということ。
- ・市民の中に出かけて行って、議会の権能や仕組みそのものを知ってもらうことが必要ではないか。市民が情報を共有しないと議会を感じてもらうことにはならない。
- ・議会改革検討協議会では、次期検討することで先送りになった。再び先送りにするのはいかがなものか。何か進めるという結論を出した方が、千葉市議会として市民に姿勢を示せるのではないか。
- ・他市の状況は関係ない、本市が独自に考えていけばいいことではないか。我々が市民に理解してもらい、関心をもってもらい、より多くの声をあげてもらおうように議会で何か進んでいる状況をつくりだそうということが目標では。部会としては、議会報告会を行うことを決定することではなく、恒久的に市民参加を進めようということを決めるのではないか。
- ・今持っているツールをいかにうまく活用していくかという部分が終わっていないのに、順番からどうなのか。ここをきちんとやってから次のステップへ進むことが議会としてのやり方ではないか。
- ・議会報告会は議員個人で行っているのに屋上屋を重ねる必要があるのか。議員個人がやるべきことと議会がやるべきことを、議論の中では区別した方がいい。会派がやることまで議会が乗り出してくる必要性はないのではないか。
- ・試行するなら目的、成果、評価基準をしっかりと設定する必要がある。問題点が分からないと試行しても意味がない。市民に関心を持ってもらうところをもっていくなら、もっとくだけたもの考えた方がいいのではないか。そのような思いから、区委員会（協議会）を設置してはどうかと提案した。（委員長意見）

### (3) 今後の開催日程等について

第3回定例会中に「議会のあり方」検討協議会及び経過報告会の開催が予定されていることについて報告があり、報告文の作成については正副部会長に一任することで了承される。

次回の部会は、10月18日（木）午前10時から開催することを決定した。